

## 「オープンエデュケーションと未来の学び」反転授業 Q&A

大阪（2014/8/3）、札幌（2014/8/8）に開催された反転授業が開催されました。以下はそこでの Q&A の内容です。

**Q：講座の受講数と、4 週までの修了者数を教えて下さい？**

**重田**：登録者は 7100 名で、第 4 週までのクイズ解答者は現時点（8/3）ではまだデータをもらっていません。YouTube ビデオは 3000 views から漸減していて、1000 人以上ぐらいだと思います。Week2 の課題提出者は 1000 人以上に提出していただいています。

予想以上に最後の方まで受けていただいている、通常の MOOC より修了率はかなり高く、1000 人ぐらい（14.5%）は最後まで受けていただいているようです。JMOOC の課題締切が遅めなので、あとから追いつけるのも大きいのでしょうか。

**Q：MOOC を継続することがむずかしいと、講座に参加して実感している。参加者が減ることへの対策は？**

**重田**：むずかしい質問ですが、これは大きな問題でよく考えています。

MOOC のドロップアウト率が低くならないといけないのかどうかを、半分ぐらい疑っています。MOOC は誰でも受講できるが、やめる自由もあります。思っていた内容ではなければ、受講を中止すればよいのです。有料の講座ではこうはいきません。

講師ができることとしては、教材やその提示の工夫があります。しかし、インストラクションデザイン的前提である受講者の想定を通常しますが、誰でも受講できる MOOC ではむずかしいのです。大学では 1 年生からの積みあげで授業を設計できますが、MOOC ではできません。

**武田**：わたしもドロップアウト率の重要性を疑っています。私自身修了したコースがないぐらいで、専門家として教材を見たいというような、オープン教材としての利用も多いと思います。

**森**：Exploratorium の Coursera 講座を受講中で、自分の興味のあるコースはモチベーションを持って視聴していますが、レポートは提出していません。専門家として参考にしたいということがあります。

**Q:** 仕事の合間に視聴していたのですが、講義は頭に入っても知識をアウトプットできるようになった実感がありません。講座の内容を自分の知識とするためのアドバイスがあれば。

**重田:** eラーニング全般にかかわる根本的な質問です。

今回 Week1 から 4 で学んだのは知識です。受講者が得た知識を説明してアウトプットすることによって、知識が身についたかどうかを評価することができます。「オープンエデュケーションの〇〇について何百字で述べてよ」のような課題を出して、講師が採点すればよいが、MOOC のように数千人受講する場合はそれは簡単ではありません。

そのかわりに多肢選択のクイズで代替する、4 週の知識を使ったレポートを相互採点してもらうなどの方法をとっています。

結論としては、ちゃんとアウトプットする機会をつくりましょうということになります。ディスカッション・フォーラムなどで議論をすることも重要です。

**森:** このような反転授業の場で質問をすることがまさに大事です。

**重田:** 直接質問をしてもらうためにハングアウトでつながる機会をつくりました。教える側も工夫することが必要です。

**Q:** 動画で学ぶことが苦手で集中できません。本のように文字中心の方が自分のペースで学べると思いますが、文字ベースの MOOC が広まらないのはなぜでしょう？

**重田:** MOOC だからといってビデオを使わなければならないわけではありません。たとえば Open Learning Initiative (OLI) にはビデオがまったくありません。たとえば「心理学入門」には紙芝居的で文字しかありません。学習目標が常に表示されていて、それにそったテキストとクイズが表示されます。

学習スタイルによって、文字中心の方が学びやすい人と、映像で学びたい人で分けられればよいのですが、なかなかそうはなっていません。

当初の MOOC ではスター講師の講義を見たいという要望があったり、板書を見ながら学ぶ方法（たとえばカーン・アカデミー）など、いろいろ試されているのが現状だと思います。

**森:** MOOC の場合は 10 分以内で映像をつくりますが、幼児向けのビデオは 30 秒しか集中できないことを前提につくられています。MOOC もこれから変わっていくかもしれません。

**重田:** スタンフォードの研究結果では、MOOC では 6 分でアテンションが下がるといわれています。教材の設計はこれから変わっていくでしょう。

**Q:** 中学の教師ですが、反転用のビデオを作ろうと思っています。しかし、教科書会社との交渉がなかなか進んでいません。これをオープンな方向にするにはどうしたらいいでしょうか？

**重田:** 補助教材には2つの方向があり、明日の授業のための教材ということなら簡単に検索することが重要です。一方で人の作った教材は使いにくいと思う人もおり、その場合は容易に教材をつくれる環境が重要であると思います。また、教材設計などの専門家などを含めたチームで教材がつくれるようになることも必要でしょう。

**Q:** 教科書会社には予習復習のための問題の解説動画を作るなどと言われています（授業時間外なので著作権法に抵触するので）。

**重田:** 教科書会社が予習復習の教材をつくって公開すべきだと思います。

**Q:** スライドがダウンロードできることをあとで気づきました。

**重田:** 映像で学ぶのがよいか、スライドで学ぶのがよいかは学習スタイルの違いによりますが、もう少し積極的にアナウンスすればよかったと思います。

**Q:** 教育学にめざめたきっかけを教えてください。

**重田:** 学生時代にライダーを始めて、操縦教育証明（教官の資格）を取ったことです。

**Q:** 高大連携、リクルーティングでの MOOC 利用の可能性について。

**重田:** オープンコースウェアは高校へのコンテンツ提供の意味もあり、MOOC を受講した生徒にコンタクトを取るなどアクティブなプロモーションもできると思う。

Udacity のように優秀な人材のリクルーティングや企業の初任者研修などに使う、教育以外のコンテンツ（たとえば何々弾いてみた）のように広く考えられます。

**Q:** MOOC を作るのはどれぐらい簡単になりますか。また、普通の教員ができるようになるにはどんな見通しでしょうか。

**重田:** 教材をつくりにはいくつかのステップがあります。何を教えたいかを決めて、教授設計、ビデオ収録などいくつか専門性のあるタスクを実行しなければなりません。これを1人ですることは大変なので、大学で制作する場合はチームなどの仕組みを作っていかなければなりません。

**Q：オープンではない教育はどのようなものでしょうか？ また、オープンをどう訳すとよいのでしょうか？**

**重田：**オープンエデュケーションを学問にしたいと思っています。その意味で、オープンとはなにか？はわたし自身の大きな課題です。Week4のスライドに示したように、オープンエデュケーションが既存の教育を包みこむようなものとして考えると、オープンでない教育とは既存の教育制度の中の教育であると思います。

オープンエデュケーションの根幹は教える自由だと思うので、誰でも教えられるようなツール、ナレッジ、機会をあたえることが大切だと思います。

「無料」については、どのレベルでとらえるか、ビジネスモデルがどのようになっているかが重要だと考えています。お金の流れ方はさまざまです。同じMOOCといっても、いろいろなかたちがあって、試されているといえます。

**Q：無料でないとオープンエデュケーションではないのでしょうか？**

**重田：**たとえば放送大学は無料ではありませんが、オープンコンテンツとはいえます。

**Q：ビジネス利用についてはどう考えていますか？**

**重田：**プラットフォーム事業者と協議の上で、コンテンツを積極的に活用すべきだと考えています。オープンすることによってコンテンツがよくなるということも言えます。

**Q：学習ログをどう活用するのがよいと思っていますか？**

**重田：**学習ログの利用については、まずJMOOCと協議しなければなりません。特定の受講者（たとえば1970年生まれ）の学習傾向のような分析についても慎重にすすめていくと思います。

講座の改善に学習ログを活用することに関心がありますが、そのためにはきちんと教材設計をおこなっていないとできません。

**武田：**MITとハーバードが匿名化したデータを公開しています。

<http://harvardx.harvard.edu/dataset>

この講座の場合はレポートの形で大量のテキストデータが蓄積されていて、これは現在のオープンエデュケーションへの認識を示すようなデータであるといえます。分析方法も含めてオープンにしていくことがよいと思います。

**森：**MOOCの魅力は多様性だと思います。今後、教える側も多様性になりますから、分析も多様になっていくでしょう。